

日本医学会分科会活動報告

学会名(No.89) 一般社団法人日本呼吸器外科学会

代表者名 吉野一郎

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

呼吸器関連諸学会とともに運営されている肺癌登録合同委員会では肺癌など胸部悪性腫瘍 症例を集積して多くの研究成果をあげており、現在までに 40 編以上の英文論文にて公表してきた。中でも肺がんの外科治療や悪性胸膜中皮腫 の研究では、呼吸器外科学会が主体となっている。日本の肺がん外科治療のベンチマーキング、予後因子の解析などを通じて、我が国の呼吸器外科レベルが高いことを内外に発信してきた。また NCD を利用した研究を展開し、呼吸器外科手術の安定性・安全性などを発信してきた。厚生労働行政推進調査事業費補助金「新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた中長期的影響の調査研究-今後の保健・医療体制整備の観点から-」においては、「COVID-19 蔓延と呼吸器外科手術数の関連性」について研究を進め、3 篇の英語論文にまとめ、うち 2 篇はすでに好評済みとなっている。

b. 当該領域における国際的な役割

肺癌登録合同委員会で集積されたデータを世界肺癌学会の国際データベースに供出し、それを通じて国際的 TNM 分類改定に貢献している。特に世界の早期例や局所進行症例のデータの多くは、日本の呼吸器外科医により集積されたデータである。また欧州胸部外科学会やアジア胸部外科学会とも連携し、胸部外科（呼吸器外科）の学問的な交流を継続している。2024 年 5 月に開催された第 41 回学術集会では、両学会との共同シンポジウムを開催した。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

呼吸器外科専門医制度(1989~)、胸腔鏡技術認定制度(2021~)、ロボット手術プロクター制度(2018~)を通じて、優秀な呼吸器外科医を育成することで、安全で確実な呼吸器外科医療の提供に貢献している。呼吸器外科専門医は外科専門医の上位にあるサブスペシャリティとして、手術要件や セミナー受講要件、新規申請者には筆記試験の合格を課し認定してきた。発足以来、適宜 修正を加え今日に至っており、現在、1,585 名の専門医が活躍している。また胸腔鏡の普及に伴い、安全性を向上させるために設けた胸腔鏡安全技術認定制度では、2024 年よりロボット手術も認定範囲に含めることになっている。ロボット手術については、2018 年の保健収載以降、プロクターの育英・認定に着手しているが、2023 年より複数機種に対応した制度になっている。また全例事前登録制となり、現在そのデータを元に安全性に関する検証作業に着手している。

d.学会運営上留意している点

学術集会、学術研究、生涯教育に特に力を入れている。学術集会では、例年 2000 名以上が参加し、1500 題以上の演題ではエビデンスの構築や確認、ビデオによる技術の評価・共有、新しい課題の提案がなされている。欧州胸部外科学会との交流も続いており、相互に学会への会員派遣や Award の創設を実施している。学術研究では、NCD データを基盤とした研究が毎年 2-3 題提案され、論文として国際的に発信されている。生涯教育としては、胸腔鏡教育セミナーやアドバンスドセミナーでは、診療技術の向上のためのアニマルラボを実施しており、呼吸器外科セミナー・では最新の知識と情報を提供している。コロナ禍での学習を助けるために、セミナー類のオンライン化と充実を検討している。また若手の教育や活動を補助するための新組織の設立も併せて検討中である。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

ガイドラインの策定：日本肺癌学会、日本内視鏡外科学会と協力して診療ガイドラインの作成を行っている。2022 年度中を目途に、肺癌や縦隔腫瘍などの胸部悪性腫瘍に対する胸腔鏡手術に関するクリニカルクエッションについてまとめる作業に着手している。肺癌登録合同委員会：日本肺癌学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本胸部外科学会と共同で肺癌登録合同委員会を組織し、これまで 11 の研究事業を展開してきた。若手外科医の育成：日本胸部外科学会と協調して 40 歳以下の若手を中心とした組織を充足させ、診療能力の向上や学術的な啓発活動などを検討している。専門医制度：日本外科学会が主導する外科専門医を基本として（一階建て）、サブスペシャリティ（2階建て）としての呼吸器外科専門医を日本胸部外科学会と共同で組織している呼吸器外科専門医合同委員会の下で運営している。